

令和5年度

教職課程

自己点検・評価報告書

仙台大学

令和6年3月

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの好事例点検・評価	4
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	4
	基準領域2 学生の確保・指導・キャリア支援	5
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	6
III	総合評価	7
IV	現況基礎データ票	8

I 教職課程の現状及び特色

1 現況

- (1) 大学名：仙台大学
- (2) 学部名：体育学部
- (3) 所在地：宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2-18（船岡キャンパス）
- (4) 学生数及び教員数（令和5年5月1日現在）

学生数：

学科	教職課程履修者数	在籍者数
体育学科	129名	1,394名
健康福祉学科	46名	386名
スポーツ栄養学科	14名	300名
スポーツ情報マスメディア学科	15名	175名
現代武道学科	14名	204名
子ども運動教育学科	25名	131名

教員数：

学科	教職課程科目担当教員数	教員数
体育学科	18名	43名
健康福祉学科	29名	19名
スポーツ栄養学科	14名	13名
スポーツ情報マスメディア学科	13名	14名
現代武道学科	13名	11名
子ども運動教育学科	6名	9名

(5) 教職課程認定学科等一覧

体育学部	学科	免許状の種類
	体育学科	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種普通免許状（保健体育） ・高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
	健康福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種普通免許状（保健体育） ・高等学校教諭一種普通免許状（保健体育） ・高等学校教諭一種普通免許状（福祉） ・特別支援学校教諭一種普通免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する教育の領域） ・養護教諭一種普通免許状
	スポーツ栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種普通免許状（保健体育） ・高等学校教諭一種普通免許状（保健体育） ・栄養教諭二種普通免許状
	スポーツ情報マスメディア学科	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種普通免許状（保健体育） ・高等学校教諭一種普通免許状（保健体育） ・高等学校教諭一種普通免許状（情報）＜令和6年度新設＞
	現代武道学科	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種普通免許状（保健体育） ・高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
	子ども運動教育学科	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭一種普通免許状

2 特色

(1) 沿革

仙台大学は、昭和42(1967)年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。コーチングの手法やトレーナーの育成・スポーツの運営管理などを学ぶ「体育学科」、福祉や健康支援などを学ぶ「健康福祉学科」、運動・スポーツと栄養・食事に関する両方の知識を学ぶ「スポーツ栄養学科」、スポーツ競技に不可欠な情報戦略やスポーツの報道の在り方などを学ぶ「スポーツ情報マスメディア学科」、武道の指導法や武道の応用展開を通じ、社会の安全・安心の在り方を学ぶ「現代武道学科」、そして、幼児期の運動を通じて、発育成長する子どもの教育の在り方を学ぶ「子ども運動教育学科」を設置している。これらは、いずれもそれ自体、独立した教育研究、社会貢献領域と言える。しかし、本学はこれら広範囲な領域をすべて「身体活動」という一つの共通要素を基軸とした事象と捉え、6学科を体育・スポーツ及び健康分野の人材育成分野における「実学」教育の場として、体育学部という単一学部内に設置した。このことが、体育系の中で本学の個性・特色とするところであり、これを表明するために「スポーツ・フォア・オール」という基本理念を掲げている。

(2) 理念

仙台大学の基本理念は「スポーツ・フォア・オール」である。「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障害の有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみることが好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

本学は、建学の精神「実学と創意工夫」を基盤に「スポーツ・フォア・オール」を基本理念として、学生一人一人の可能性を導き出す真の人間形成を促す教育を展開し、体育学の基盤的な分野、すなわち、体育・スポーツ及び健康分野において専門的な知見・技能を有して、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を学修し、当該分野の指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野をもって、教育現場で専門的指導者として、その発展に寄与し、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する前途有望な人材を養成している。

(3) 教職課程

仙台大学では、開学以来「中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）」を基盤とし、スポーツ・身体活動を支える職域を主体としてさまざまな免許・資格の取得が可能なカリキュラム編成を行っている。

教員免許状を取得するために必要な「教職に関する科目」、「教科・指導法に関する科目」、学科を超えて履修できる「自由科目」も設置され、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を学修し、当該分野の指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、体育施設管理、アスレティックトレーニング、ストレングス&コンディショニング、栄養指導、スポーツ情報分析、体育・スポーツに関連した安全・安心の確保など、高い識見と広い視野をもって、教育現場で専門的指導者として、その発展に寄与し得る人材を養成する。

II 基準領域ごとの自己点検・評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

〔現状・取組〕

本学の建学の精神は「実学と創意工夫」である。体育系単科大学として創設された仙台大学の建学の精神、基本理念は、第一回入学式初代学長の告辞に、次のとおり示されている。「本学においては、自由を尊重するとともに、自律と義務履行に生きる、誠心に厚く、自己の智識と技術を通じて、国民の健康増進のために社会に貢献し、人類に奉仕する熱意を実践に移すことのできる男女人材の育成を使命としております。」「仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております。」

学部及び各学科に係る「ディプロマ」「カリキュラム」「アドミッション」の三つのポリシーは、本学の建学の精神を反映し、これを具現化したものとして設定、大学案内、学生便覧及びホームページ等に掲載して、在学生、教職員及び社会一般に対して周知している。また、年度当初に行われるオリエンテーションの際には、全学生に配布する『オリエンテーション資料』にも表記するとともに、担当者（クラス担任／4年生は卒業論文指導教員）から説明することで周知を図っている。教職員には、毎年4月の「教職員全体集会」において、学長が建学の精神、使命・目的及び教育目的等について示し、教職員の共通認識を図るなど、目的・目標共有の機会としている。

基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状・取組〕

教職支援センターを設置、教職課程に係る各種事業の円滑な実施を通じ、組織的な支援を推進している。また、教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員、実務家教員及び教職科目担当教員、実技系科目担当教員並びに教職支援課職員等の効果的な連携と支援体制の強化・充実と協働体制の整備に努めている。これにより、全学組織（教育企画部・教養教育部）と教職支援センター、各担任が連携し、教職課程および関連事業を実施するなど、教職希望の学生一人ひとりに応じた支援を行っている。

「学修状況調査」の結果を基に、全教員を対象とした「授業改善FD研修会」、「授業づくりのためのFD研修会」を開催し、授業改善につなげている。教員だけでなく学生も交えた研修会も開催し、学修の在り方をテーマに教員と学生が同じ目線で直接話し合っている。討論を重ねることで教員と学生の距離が縮まり信頼関係を築くことにも役立つだけでなく、「学生の生の声」を教育内容や方法等の改善に資する場としている。また、各学期に、東日本地域の大学・短大等の教育改善推進を目的として発足した「FDネットワークつばさ」の共通フォーマットを参考に「授業改善アンケート」を実施している。各授業科目に対する学生の取組状況や要望・意見・満足度等を確認し、授業改善に役立っている。これらの取組を通じ、全学を挙げて、FD、SDの取組を展開、新しい教授方法の採用など、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとしての授業の在り方について改善・工夫に取り組んでいる。

基準領域2 学生の確保・指導・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

〔現状・取組〕

教職を担うべき適切な人材の確保のために、ディプロマ・ポリシーの考え方をより具体化し、卒業時に身につけておくべき資質や能力を「着眼点」として定めている。この「着眼点」は、学生が具体的に目指すべき資質・能力を示すものであり、これらの実現こそがカリキュラム・ポリシーの目指すところである。また、シラバスにおいては、この「着眼点」に記載された各項目が各科目とどのように関連しているかを、カリキュラムマップに基づき明示することで、各科目に対する学生の理解が深まり、それぞれの科目を通して必要な資質・能力を身につけられるよう配慮している。

単位制度の実質を保つことを目的とし、CAP制を導入している。しかし、CAP制の対象となる科目は「基礎科目」「専門基礎科目」「発展科目」「応用科目」としており、教職をはじめとする資格・免許取得に関連する科目はその対象外であることから、取得可能な資格・免許の種類が多い学科、あるいは資格・免許関連の科目が多く設定されている学年については上限を超えての履修登録者がみられる。これらの学生に対しては学修（教職課程を含む）の質を担保できるよう、「履修カルテ」を基に、資格等科目担当教員による面談等を通じて助言や、クラス担任や卒業研究担当教員による成績確認などを行っている。

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状・取組〕

教職支援センターを設置し、教職へのキャリア支援プログラム（「教採塾」、「せんだい実習」、「チーム教採」等）、教員採用試験説明会（学内開催）の企画・実施等の業務を行っている。支援プログラムは、教職志望学生の実情や今日的な教職課題に即し、ねらいや期待する効果等を点検・確認、学修の重点化を図り実施している。また、受験生を支える、サポート環境として、教職支援センターには、常時、各自治体の過去問集や教員採用試験対策の書籍や雑誌、指導書を用意しており、閲覧や貸し出しも可能。また、センターには、情報収集用のパソコンや学習机も用意され、常駐する教職員に質問、相談する体制も整備されており、教職希望の学生一人ひとりに応じたきめ細かい相談・助言を行っている。実技試験対策の練習会場として、第2体育館には、ボール、マット、跳び箱等、教採受験者専用の備品も備えられ、学生の主体的な活動を支援している。特にラーニングcommons（LC棟）は、アクティブ・ラーニングなど学生たちの主体的な活動を支援する環境を提供するだけでなく、学生と教員とが学び合う場ともなっている。

支援プログラムは、いずれも、教職に主体的に取り組む姿勢、採用試験対応学力、そして将来教壇に立つときに求められる指導力、実践力の錬成・強化をめざし、学生主体の活動として実施している。教員採用試験対策講座「教採塾」は、採用試験対策として常時開講、採用試験のスケジュールを念頭に試験内容に関する具体的で実践的な対策指導を行っている。「せんだい実習」は、宮城教育大学等、教員養成系大学の学生との合同実習、教師を目指す他大学の学生と、学生同士、教師役、生徒役を務めながら模擬事業を実施し授業研究を行う。「チーム教採」は、球技、水泳、体操等、各々の専門を活かし、学生同士で教え合い、学び合いながら実技の技能と指導力を養うなど、学内外の資源を活用しながら、組織的にキャリア支援を行う体制整備に努めている。

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状・取組〕

教職課程を修め学位取得に至るまでのプロセスを可能な限り可視化するとともに学修の質を保証していくために、シラバスを作成し公開している。また、シラバスにアクティブ・ラーニングのキーワードである「課題解決型学修」「反転学習」「ディスカッション」「ディベート」「グループワーク」「プレゼンテーション」「実習」「フィールドワーク」の8項目を表示する覧を設けている。カリキュラムの体系的編成については、カリキュラム・ポリシーに基づき、各学科においてナンバリングを導入するとともにカリキュラム・ツリー（履修系統図）及びカリキュラムマップを策定することで、教育課程の順次性・系統性を明確化している。これらのナンバリング、カリキュラム・ツリー（履修系統図）、カリキュラムマップは、学内ポータルサイト及びホームページでも公表している。

評価の観点を可視化するため、令和元年度よりルーブリックの作成を全ての科目で実施しており、シラバスに併記している。ルーブリックを明示することにより、学生自身が自分の学修状況を把握し、自己評価するための基準を持つことが可能となっている。学生が目指すべき学修成果の水準を具体的に示し、特に複数教員が担当する科目においては評価の透明性と公平性を担保している。各科目のシラバスは「教育改善企画運営委員会」の委員が「シラバス・ルーブリック作成要領」に基づき記載内容を点検し、修正が必要な場合は科目担当教員に改善を指示している。年度末の「振り返りと次年度に向けて」では学生からの授業評価を意味する総合平均値を記入することと併せて、その様式内に「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を義務付けている。結果に対する教員の自己点検・評価の実施により、自ら教育の質の向上と質の保証を高めることにもつながっている。

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

〔現状・取組〕

教職支援センターを設置し、教職へのキャリア支援プログラム（「未来先生」、現職教育研修への参加等）の企画・実施等の業務を通じ、地域や関係機関と連携を図りながら実践的指導力の錬成に努めている。また、令和5年3月現在で、大河原町、角田市、仙台市、柴田町、岩沼市、大崎市、名取市の各教育委員会と学校支援ボランティアの派遣に関する「連携協力」に関する協定書等を締結、部活動指導補助、学校行事補助のボランティア派遣を行うなど、地域と連携しながら実践的指導力養成の取組を進めている。

スクールインターンシップ「未来先生」は、平成28年度より、柴田町内の小学校（6校）・中学校（3校）を対象として主に、長期休業中や放課後の時間を活用し開催している。地域の小学生・中学生を対象に、教員志望の学生が「教師役」となり、学習活動・学校行事の補助、部活動指導等を担当、「教える」ことの実践体験として貴重な学びの機会となっている。また、宮城県教育委員会が主催、本学を会場に開催される現役の保健体育教員を対象とした研修会に学生が参加、指導法や教材の工夫等について考え、共に授業をつくりあげていく教職実践演習など、学内外の資源を活用しながら、組織的にキャリア支援を行う体制整備に努めている。

Ⅲ. 総合評価

一般社団法人全国私立大学教職課程協会「教職課程自己点検評価基準」を参考に、自己点検・評価にあたった。評価項目については、大学全体の自己点検・評価（認証評価）の関連評価を組み込む形で活用した。また、学部単一であることから、「Ⅲ. 総合評価」をもって、「全体評価」としている。

以下、各基準領域で確認した評価の概要を記述する。

基準領域1 「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」

建学の精神「実学と創意工夫」、基本理念「スポーツ・フォア・オール」の下、学部及び各学科に係る「ディプロマ」「カリキュラム」「アドミッション」の三つのポリシーを明確にし、共通理解を図り協働的な指導体制を構築するとともに、多様な自己点検評価を行い、日常的な教職課程教育の改善に組織的・計画的に努めてきている。特に、「FD 研修会」では、教員に学生も交えた研修会を開催し、教員・学生が同じ目線で直接話し合う機会を設けるなど、教職課程の在り方により良い改善を図り見直すことが組織的に機能している。

基準領域2 「学生の確保・指導・キャリア支援」

教職課程を通じ身につけるべき資質・能力を「着眼点」として定めた。これは、学生が具体的に目指すべき資質・能力を示すものであり、シラバスにカリキュラムマップに基づき明示するなど、教職を担うべき適切な場人材の確保・育成できるよう配慮している。また、教職支援センターを設置し、各種キャリア支援プログラムの実施指導体制を整えている。プログラムは、教職志望学生の実情や今日的な教職課題に即し、教職に主体的に取り組む姿勢、採用試験対応学力、そして将来教壇に立つときに求められる指導力、実践力の錬成・強化をめざし、学生主体の活動として実施している。

基準領域3 適切なカリキュラム

カリキュラムの体系的編成では、学科ごとにナンバリングを導入するとともにカリキュラム・ツリー及びカリキュラムマップを策定し、教育課程の順次性・系統性を明確化。ルーブリックの作成を全ての科目で実施し評価の透明性と公平性を担保している。シラバスは「シラバス・ルーブリック作成要領」に基づき点検、必要な改善を指示するなど、適切なカリキュラム編成・実施に努めている。また、「開かれた教育課程」の視点では、スクールインターンシップ、県教育委員会主催の現職教員研修会への参加、学校支援ボランティアの派遣など、地域連携を進めながら実践的指導力育成の機会を設定している。

以上、「教職課程自己点検・評価」の過程を通じ、本学教職課程について点検・評価し、現状・取組等について学内共有を図った。今回の点検・評価結果を踏まえ、これからの教職課程に教職協働による組織的な取り組みとして生かすとともに、より効果的な点検・評価方法の在り方についても検討を加え見直しを進めることで、教職課程（教職教育）の質保証と一層の充実に努める所存である。

仙台大学 学長 高橋 仁

IV 現状基礎データ票

令和5年5月1日現在

法人名：朴沢学園					
大学・学部名：仙台大学 体育学部					
学科名：体育学科、健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科、現代武道学科、子ども運動教育学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					617名
② ①のうち、就職者数（企業、公務員等を含む）					617名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数（複数免許状取得者も1と数える）					204名
④ ②のうち、教職に就いた者の数（正規採用+臨時的任用の合計数）					119名
④のうち、正規採用者数					27名
④のうち、臨時的任用者数					92名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	53名	37名	17名	2名	
相談員・支援員など専門職員数					